

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700501
法人名	(有) 和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	愛媛県大洲市新谷乙917番地1
自己評価作成日	平成 21 年 9 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切にされたサービスの提供を行っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームと近くの公園の間には栗林が広がり、四季を通してわらび、さくらんぼ、栗等が散歩しながら収穫できるので、利用者の楽しみとなっている。建物が平屋であることも、利用者の行動範囲を広くしている。開設以来4年弱を経過しているが、この間に退職した職員はほとんどなく、優秀な職員に恵まれていると管理者は考えている。職員が明るく、優しく生き生きしていることが利用者や家族にも伝わり、全体に明るい雰囲気を出していると考えられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム春のうらら
(ユニット名)	菜の花
記入者(管理者)	
氏名	箕島美保
評価完了日	21年9月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいたサービスを提供している。又は、しようと努力していると自負している</p> <p>(外部評価) ホーム開設当初の理念は、管理者の「良いホームにしたい」という思いを表現したものであったが、開設から3年を経過した時点で、全職員で再構築している。理念とは、利用者を含めて全員で同じ方向に歩めるもの、迷いのある時は原点に戻り再スタートできるものであると考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 通勤や散歩途中での挨拶や地域での掃除の参加等地域との交流を大切にしている</p> <p>(外部評価) ホームは地域とのつきあいを大切にしたいと考え、地域行事等には積極的に参加している。ホームの近所に住む高齢のひとり暮らしの方の日々の暮らしの援助として、時々訪問したり、ごみ出しを手伝ったり、ホーム行事にお誘いして迎えに行くなどもしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所の独居老人宅を定期的に訪問し、話し相手になったり、ゴミ出しなど協力している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の現況を報告したり、時には、構成員の方と利用者様と茶和会をしたりして、内部を知って頂き貴重な意見を引き出している	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催している。メンバーとして公民館長や民生委員の参加を得、地域の様々な情報やアドバイスをいただいている。また、ホームとしては認知症やグループホームのことを理解してもらえ好機であると捉えている。	会議には利用者の代表や家族の代表も参加しているが、より自由に意見等を発言しやすいよう工夫し、さらに隣近所の住民の参加も得てホームへの理解を深めるよう取り組むことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 困った事や疑問点が出た場合、市の担当者に質問したり、回答を頂いたり連携を図っています	
			(外部評価) 運営推進会議には必ず市担当者の参加があり、意見交換を十分行っている。管理者は、元市職員であった経歴と、開設時に行政から「良いホームをつくって下さい」と声をかけてもらった経験から、協働の大切さを理解した上で協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は、一般の家庭以上にオープンにしてあり、徘徊される時は、いつまでも寄り添い身体拘束は、今の所ありません	
			(外部評価) 拘束については、ホーム内で研修を行うだけでなく、機会あるごとに受講して学んでいる。利用者のベッド柵を取り除く方法について職員間で検討を重ね、床マットの使用からベッドの高さ調節、センサーマットの使用等と工夫を繰り返すなど、全職員が拘束ゼロに向けた支援に熱心に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学習会を持ち、虐待は、悪であることを認識し、職員同士が監視人となり「見過ごさない、見落とさない」とモットーにしている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員で勉強会を持ち、成年後見制度を理解して、機会があれば必要な方に周知するようにしている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の時には、十分な時間をかけて重要事項等説明しているし、リスクについても理解をして頂いているつもりです。又、報酬改訂についても文章や面会時に説明している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族合同の催し事の時、時間を取って意見や要望がないか問いかけています。又、家族会を立ち上げ意見を引き出しやすい環境を整える行くように7月に話し合いを行いました (外部評価) 来訪時はもちろん、行事の際は特に意見を聞く大切な時間と捉えているが、運営に関する意見はあまり多く出されていない。ホームとしては、家族と協働してより良いホームにしていきたいと考えており、家族会結成の準備を始めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員→管理者→施設長のルートで、職員からの実情を聞き、可否について職員に周知している。最近は、利用者のユニット異動について実施している (外部評価) 職員は、運営に関する意見等をいつでも話し合ったり管理者に伝えたりできるため、不満等を長く持ち越すことはない。不安や混乱の強い利用者について、2ユニットどちらでの生活がふさわしいか等について職員間で具体的に検討し、安定につながった例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 小さい事業所なので、十分な事は出来ないがこの事業所なりの努力はしています	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 十分に出来ているとは、言い難いので、勤務年数に応じた研修を計画を立て実施しています。今も愛媛県グループホーム連絡協議会の研修を活用している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 全国、県のGH連絡会に加入して情報の収集に努めている。又、市単位での同業者同志の相互視察研修も2年目になっております	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス提供前に見学して頂き、本人様御家族にも充分説明して、良好な関係づくりが出来る様に要望など十分に耳を傾けています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居初期は、なるべく面会を増やして頂いて、御家族や本人様が安心できるように要望や不安がないように意見交換しています	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様、御家族の必要とするニーズを取り入れながら支援し、事業所で出来る事出来ない事を伝え、他のサービスも含めた対応を考えながら落ち着いて暮らせるように支援しています	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「感謝、助け合い」と掲示し、職員も利用者様も共に助け合って互いに感謝の気持ちを忘れないように「有難うございます」と言い合っています。又、人生の先輩として教えて頂いています	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 特に遠距離の方は、ホームたよりや電話したりして関係づくりを深めるようにしています。ホーム側からも衣替えに来ていただくように面会の機会を作っています	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 全員ではないが、一部の利用者は、友達や御近所の方が訪問され、今までの繋がりを続けておられ、陰ながら支援しています。又、ふるさと訪問もやれるように継続して行こうと思います (外部評価) 家族だけでなく友人・知人等の訪問がある利用者もあり、ホームとして歓迎し、次に繋がるように支援している。また、馴染みの場所との関係が途切れないよう、利用者一人ひとりの誕生日にふるさとを訪問する取り組みも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 会話や手作業ができなくても輪の中に入れるように支援しながら雰囲気を楽しめるようにしている。孤立した利用者の場合、寄り添うようにしています	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居されても、入院中であればお見舞いに行ったり、その後の様子を伺ったり関係を断ち切らない関係を続けています	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や意向を言わなくなっているが出来るだけ表情や会話の中からさったり、利用者の立場に立って取り組むようにしています (外部評価) 利用者一人ひとりについて、日々の関わりの中で、思いや言いたいこと、望むこと等を把握し、できることを引き出す支援に取り組んでいる。利用開始から間もない利用者については、特に全職員が個人記録ファイルに丁寧な記録を残す体制を取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に十分な時間をかけて今までの生活歴、趣味嗜好など本人様や御家族から聞き出しサービスに生かしています	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの出来る事を見極めて有する能力を発揮できるような場面を作ったり、誉めて継続するようにしています。全ての利用者に対して常時というのは、難しいです	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 御家族や利用者から必ず御意見要望を聴き本人の思いを大切にしながら、職員間で話し合い計画を立てるようにしています	
			(外部評価) 毎月、計画についての評価を行い、3か月毎に見直している。記録について、結果を具体的に記載できるような書式を検討し、次の支援に結びつけられるようにしている。利用者や家族から思いや希望を聞くとともに、作成した内容を説明して了解を得る等、本人主体の誠実なケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践の中で、工夫等介護記録に「A」として記入して、実践内容やその結果など記録して行っている。又、申し送りやスタッフ会でモニタリングしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や御家族との相談で、マッサージ等必要、要望に対して取り入れるようにしています。今後、ニーズに対応できるように他のサービスを充分把握して行こうと思います	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事毎に御家族が協力して下さったりはするがもう少し地域の資源を利用していきたいです	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医と相談しながら、御家族の希望の医療を考え通 院介助、受診又往診をして頂いています (外部評価) 入居前のかかりつけ医を大切にしたいと考えている が、ホームから遠方の医療機関を受診していた利用者 については、納得した上でホームの協力医に変更する 場合が多い。ホームに非常勤の看護職員が1名配置さ れているが、医療連携体制を整備したことで週1回の 看護師の訪問もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 連絡ノートを作成しており、看護師に伝えて相談しな がら助言を頂いています	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療ソーシャルワーカーを介して情報を頂き入院され ている利用者の情報をキャッチしている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りをした事はないが、重度化や終末期のあり方 について勉強会で勉強したり、その場面が近づいた御家 族とは、終末期の要望や希望を聞きホームで出来るこ との説明している (外部評価) 看取りに関する指針があり、利用開始時に利用者及び 家族に説明している。看取りの経験はないが、職員は 救急救命実践訓練も受けており、生活をともにした利 用者を最期まで見送りたいという気持ちは強い。	医療行為ができないというグループホームの限界もあ るが、利用者の重度化に伴って職員の不安も強まるこ とが予測されるため、安心してケアに取り組めるよう さらなる研修の継続を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の勉強会（消防署による）を計画しています。夜間帯は、緊急マニュアルに添って行動し、初期発見、初期手当てを実施しています	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時を想定してマニュアルを作成し、職員で非常用の備品を準備しています。又、近隣の方々や運営推進会議の委員様にも、火災時の協力を依頼しています。消防団の協力が頂ける様に話合っています (外部評価) 運営推進会議や地元消防団の協力だけでなく、さらに近隣住民の理解も得て協力体制を築いており、緊急連絡網にも組み込んでもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様の誇りやプライバシーを尊重した対応を心掛けています。職員には、トイレや入室などプライバシーを損ねないように周知している (外部評価) 「自分がされたくないことはしない」を念頭においてケアにあたっている。特にトイレ使用中のドアの確認や、入室時のノック、声かけ等については、ホーム内研修でも何度も取り上げて検討し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人にあった選択を出来るような場面の提供（おやつ、着替え、散歩など）声かけしながら自己選択して頂けるようにしています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理強いする事は無く、その人のペースに合わせた暮らしを支援しています。お元気な方、足の弱い方、グループ行動の苦手な方それぞれのメニューで支援しています	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室を利用したり、化粧や衣服など本人にあった方法で身だしなみを支援しています	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個人の嗜好にあった食事を心がけています。又、利用者のレベルに合わせて食事の準備、片付けなど職員と共に行っています (外部評価) 食事に関する一連の作業は、可能な限り利用者の力を借り、「役に立っている」と一人ひとりが思える支援に努めている。調査員の訪問時に利用者と一緒に栗拾いをしたが、その時の栗を処理して昼食の炊き込み御飯に入れたと利用者から報告してもらった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分不足の利用者は、水分チェック表をつけたり、ペットボトルに白湯を用意して水分補給に力を入れています又、栄養面も季節の物、旬の物を取り入れ、個別に量も配慮しております	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 必ず口腔ケアの声かけお誘いし不十分な所は介助し、夜間ポリデントで洗浄しております。今は、全員が口腔ケアするように習慣づけています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて、パターンを把握し、トイレでの排泄を促しています。すぐにリハビリパンツにせず下着で出来るだけ気持ちよく過ごせるようにしている	
			(外部評価) 多くの利用者は排泄に関して何らかの援助が必要であるが、さりげない支援を第一に考えてケアにあたっている。特に夜間は、利用者一人ひとりの状況に合わせた様々な工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) その人に合った散歩や体を出来るだけ動かして体操などしています。食事面も野菜を多くし、水分補給にも配慮しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望に応じて、毎日入って頂き、拒否のある方は、スムーズに入れるような方法を見つけ出し工夫して入浴の対応しています。季節に応じて、ゆず風呂など季節に応じて楽しみごとを行っています	
			(外部評価) 日曜日以外は毎日入浴できるよう支援しており、日に4～5人が入浴している。入浴拒否のある男性への対応で「髭剃りのための入浴」という声かけでスムーズに入浴できた例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人に応じて、和室で横になれるようにいつでも布団を用意しており、その時々状況に応じて休息するように支援しています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬のファイルがあり、副作用などが分かるようにしており、変更時も伝達ノートで状態、薬の内容など詳しく記入して職員が把握できるようにしています	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や現在楽しまれている状況を把握して役割りしたり、出来る事を引き出しながら支援しています	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 自由に3人の方が毎日好きな時間に散歩しています。又、外食、笹祭り、ドライブ、運動会など外出を積極的に支援しています	
			(外部評価) ホームは平屋建てで、利用者は自由に戸外に出られ、近所の公園に毎日散歩に出かける利用者もいる。玄関前にはベンチが設置され、道行く近所の方とあいさつを交わしている。ホームの周りには広めの通路があり、周りの景色を楽しみながら歩くだけでも気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の能力に応じて、財布を持っている方もおられます。買い物時に一緒に支払うように支援しています	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 御家族からの電話やホームの用事でかけた時等、本人と話ができるように仲介しています。疎遠の方も電話かけ絆を深めるようにしています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関には、季節の花を生けたり、お雛様を飾ったりして季節感を出して、トイレには、一輪差しをしたり、夏には、西日が差し込まないように日除けをしている</p> <p>(外部評価) ユニット毎に共用空間には特色があり、それぞれの個性を表した過ごしやすい雰囲気となっている。利用者は明るい表情で共用空間に集まり、歌を歌ったりおしゃべりを楽しんでいる。食堂に大きく掲示されている「感謝と助けあい」の言葉を利用者・職員共に大切にしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ベランダから裏庭の畑へ出られたり、玄関や廊下に休憩できる椅子を用意して過ごせるように工夫しています</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) お部屋は、壁に写真や手作りカレンダーを飾ったり、使い慣れた椅子、仏壇など身近なものを持ってきて頂いております。</p> <p>(外部評価) ホームは平屋建てで、全居室から中央の広く明るいベランダに出ることができる。ベランダは普段は洗濯物を干しているが、時にイベントを開催することもある。それぞれの居室は開放的で、居心地良く過ごせる場所となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 転倒の危険性のある利用者には、センサーマットやポータブルトイレなど利用したり、居室の表札も奥へ行く程高くなり一目で自分の部屋が分かるようにしています</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700501
法人名	(有)和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	愛媛県大洲市新谷乙917番地1
自己評価作成日	平成 21年 9月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切にという理念の元、サービスの提供を行っています。神南山の麓に位置する当ホームでは、四季折々の風を感じ、匂いを感じ、ご近所の方々の暖かさを感じられる、ゆったりとした環境が魅力です。特に、地元の新谷祭りに打ち上げられる花火の鑑賞には、絶好のスポットで、御家族も大勢鑑賞に来られます。スタッフは、互いを認め合い、共に刺激し合いながら、利用者から日々学んで、成長しています。笑い声や、やさしさがあふれるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームと近くの公園の間には栗林が広がり、四季を通してわらび、さくらんぼ、栗等が散歩しながら収穫できるので、利用者の楽しみとなっている。建物が平屋であることも、利用者の行動範囲を広くしている。開設以来4年弱を経過しているが、この間に退職した職員はほとんどなく、優秀な職員に恵まれていると管理者は考えている。職員が明るく、優しく生き生きしていることが利用者や家族にも伝わり、全体に明るい雰囲気を出していると考えられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム春のうらら

(ユニット名) つくしんぼ

記入者(管理者)
氏名 篠原美紀

評価完了日 21 年 9 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 立ち上げに作られた理念も3年経ち、もっと短く身近なものをと、スタッフ会で協議し再構築を行いました。この理念に基づいたサービスの提供に向けて努力している。</p> <p>(外部評価) ホーム開設当初の理念は、管理者の「良いホームにしたい」という思いを表現したものであったが、開設から3年を経過した時点で、全職員で再構築している。理念とは、利用者を含めて全員で同じ方向に歩めるもの、迷いのある時は原点に戻り再スタートできるものであると考えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 通勤や散歩途中での挨拶や、地域での掃除の参加等、地域との交流を大切にしている。また、地元のお寺の花祭り参加を断続的に行っている。和尚様や地域の方の協力もあり、檀家でない方も参加させていただいている。</p> <p>(外部評価) ホームは地域とのつきあいを大切にしたいと考え、地域行事等には積極的に参加している。ホームの近所に住む高齢のひとり暮らしの方の日々の暮らしの援助として、時々訪問したり、ごみ出しを手伝ったり、ホーム行事にお誘いして迎えに行くなどもしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 昨年11月に当ホームの暮らしぶりを地域の方々に知って頂きたく、第1回文化祭を開催し多くのご近所の方々に足を運んでいただいたことで、少しでも知っていただいたのでは？</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況を報告したり、時には、構成員の方と利用者と茶話会をしたりして、内部を知って頂き、貴重な意見を引き出している。また、出された意見を今後活かせるようにしていきたい。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催している。メンバーとして公民館長や民生委員の参加を得、地域の様々な情報やアドバイスをいただいている。また、ホームとしては認知症やグループホームのことを理解してもらえる好機であると捉えている。	会議には利用者の代表や家族の代表も参加しているが、より自由に意見等を発言しやすいよう工夫し、さらに隣近所の住民の参加も得てホームへの理解を深めるよう取り組むことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 困ったことや、疑問点がでた場合、市の担当者に質問したり、回答を頂いたり、連携を図っています。	
			(外部評価) 運営推進会議には必ず市担当者の参加があり、意見交換を十分行っている。管理者は、元市職員であった経歴と、開設時に行政から「良いホームをつくって下さい」と声をかけてもらった経験から、協働の大切さを理解した上で協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関は、一般の家庭以上にオープンにしてあり、徘徊される時は、いつまでも寄り添い、身体拘束は、今の所ありません。	
			(外部評価) 拘束については、ホーム内で研修を行うだけでなく、機会あるごとに受講して学んでいる。利用者のベッド柵を取り除く方法について職員間で検討を重ね、床マットの使用からベッドの高さ調節、センサーマットの使用等と工夫を繰り返すなど、全職員が拘束ゼロに向けた支援に熱心に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学習会を持ち、虐待は悪であることを認識し、職員同志が監視人となり、「見過ごさない、見落とさない」をモットーにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員で勉強会を持ち、成年後見制度を理解して、機会があれば、必要な方に周知するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際は、十分な時間をかけて、重要事項等説明し、起こりうるリスクについても、理解して頂いているつもりです。又、報酬改正についても、文章での連絡や、面会時に説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族合同の催し事の時、時間をとって、意見や要望がないか、問いかけています。又、家族会を立ち上げに向けて意見を引き出しやすい環境を整えていくように、7月に話し合いを行いました。 (外部評価) 来訪時はもちろん、行事の際は特に意見を聞く大切な時間と捉えているが、運営に関する意見はあまり多く出されていない。ホームとしては、家族と協働してより良いホームにしていきたいと考えており、家族会結成の準備を始めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員→管理者→施設長のルートで、職員からの実情を聞き可否について職員に周知している。最近では、利用者のユニットチェンジについて実施している。</p> <p>(外部評価) 職員は、運営に関する意見等をいつでも話し合ったり管理者に伝えたりできるため、不満等を長く持ち越すことはない。不安や混乱の強い利用者について、2ユニットどちらでの生活がふさわしいか等について職員間で具体的に検討し、安定につながった例もある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 小さい事業所なので、十分な事はできないが、この事業所なりの努力はしています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 十分に出来ているとは言い難いので、勤務年数に応じた研修を、計画を立て実施していきます。今も、愛媛県グループホーム連絡協議会の研修を活用している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 全国、県のGH連絡会に加入して、情報の収集に努めている。又、市単位での同業者同士の相互視察研修も2年目になっております。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス提供前に見学していただき、本人、御家族にも充分説明して、良好な関係づくりが出来るように、要望など十分に耳を傾けています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居初期は、なるべく面会を増やしていただいて、御家族や本人が安心できるように、要望や不安がないように意見交換しています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者、御家族の必要とするサービスを取り入れながら支援し、事業所でできる事、出来ない事を伝え、他のサービスも含めた対応を考えながら、落ち着いて暮らせるように支援しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の大先輩であるという思いを忘れず、教えて頂く場面を大切にしている中で、「ありがとう」という言葉が、ごく自然に響き合っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族には、それぞれの事情があることを汲み取り、たとえどんな状況にあっても、本人が安心して生活できるよう相談しながら支えて行くことを心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親しい友人などが、気軽に足を運んでいただけるような雰囲気作りを心掛けている。何度も面会に来られるうちに、他者とも、顔馴染みになられる方もおられ、「ここに来ると癒される、ほっとする。」と言って帰られる。 (外部評価) 家族だけでなく友人・知人等の訪問がある利用者もあり、ホームとして歓迎し、次に繋がるように支援している。また、馴染みの場所との関係が途切れないよう、利用者一人ひとりの誕生日にふるさとを訪問する取り組みも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食堂テーブルの座席などには気配りし、互いに協力し、助け合う場面を大切にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 病院への見舞いや、葬儀への参列などさせていただいている。また、ばったりお会いした際には、さり気なくその後の様子などを伺っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の習慣や慣れ親しんでいることを把握し、お膳立てを行っているが、ホームでの生活をしている中で、安全面などから出来なくなっていることもある。思いはしっかり受け止めるよう心がけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりについて、日々の関わりの中で、思いや言いたいこと、望むこと等を把握し、できることを引き出す支援に取り組んでいる。利用開始から間もない利用者については、特に全職員が個人記録ファイルに丁寧な記録を残す体制を取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、または家族面会時の情報収集を参考にしている。また、把握した情報については職員間の情報の共有に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 年を重ねていく中で、1日の過ごし方の変化や、出来なくなってしまうこと、疲れやすくなった等、様々な変化があるため、その時々での現状の把握と共有に努めている。今のその人を知ることが大切だと思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者や御家族の今抱えている思いを聴き、本人本位のプランとは何か？を最優先し、毎月のケア会議で、ケア職員全員で意見を出し合い評価と計画の見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 毎月、計画についての評価を行い、3か月毎に見直している。記録について、結果を具体的に記載できるような書式を検討し、次の支援に結びつけられるようにしている。利用者や家族から思いや希望を聞くとともに、作成した内容を説明して了解を得る等、本人主体の誠実なケアに取り組んでいる。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 記録はありのまま、利用者の状況を記録し、気づきや柔軟な対応を残している。ケアプランの実践については青ラインを引いている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療保険適応のマッサージ師の訪問マッサージ術を利用する方が増えた。今後、利用できるサービスの把握を行うと共に、少しでも利用者のニーズに添えるよう対応していきたい。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の公民館行事や、小学校の運動会に参加させていただいている。外へ出向くことで、対面等あり、生き生きとされている。今後は、地域の盆踊りなどへの参加も行っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族が安心して治療が受けられるよう、かかり つけ医との関係を大切にしているが、受診に家族が付 き添えない等で、ホームの協力医へ移行する場合もあ り、スムーズに移行できるよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居前のかかりつけ医を大切にしたいと考えている が、ホームから遠方の医療機関を受診していた利用者 については、納得した上でホームの協力医に変更する 場合が多い。ホームに非常勤の看護職員が1名配置さ れているが、医療連携体制を整備したことで週1回の 看護師の訪問もある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>週一回訪問の看護師と、非常勤看護職員の配置にて支 援しているが、不在の時もあり緊急の場合は直接協力 医の指示を仰ぐこともある。看護師とは、連絡ノート にて、状態報告等を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>なるべく入院にならないよう、早い段階での受診を心 がけている。入院の際は情報を提供し、見舞いに行き 本人が安心して治療が受けられるよう支援していま す。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>身元引受人の方と、段階を経ながら具体的な支援の方 法を話し合っている。今出来る事と出来ない事のライ ン引きを明確にし、ご本人や御家族の負担や不安の軽 減に努めている。いつかはそういう時が訪れると覚悟 していても、実際訪れると揺れる思いがあることを受 け止め、一緒に大切な時間を悔いのないよう過ごせる ようにという思いがある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りに関する指針があり、利用開始時に利用者及び 家族に説明している。看取りの経験はないが、職員は 救急救命実践訓練も受けており、生活をともにした利 用者を最期まで見送りたいという気持ちは強い。</p>	<p>医療行為ができないというグループホームの限界もあ るが、利用者の重度化に伴って職員の不安も強まるこ とが予測されるため、安心してケアに取り組めるよう さらなる研修の継続を期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に救急救命の実践訓練を行い、消防署の方の指導を受けている。急変や事故がおきた時の対応法を、繰り返し学習すると共に、いざという時、落ち着いた対応ができるよう職員間の連携にも、気をつけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ご近所、公民館長さんと運営推進会議などの場を通じてお願いしている。今後、地元消防団の方にも協力依頼をお願いしたい。具体的な対応のシュミレーションも行っていきたい。 (外部評価) 運営推進会議や地元消防団の協力だけでなく、さらに近隣住民の理解も得て協力体制を築いており、緊急連絡網にも組み込んでもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に、尊敬の気持ちで接している。まず、自分が、される立場になったら・・・どんな気持ちかということ、常に念頭におき行動する。 (外部評価) 「自分がされたくないことはしない」を念頭においてケアにあたっている。特にトイレ使用中のドアの確認や、入室時のノック、声かけ等については、ホーム内研修でも何度も取り上げて検討し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) なるべく利用者本人の意思を引き出せるよう配慮している。そのためには、待つことは、とても大切な支援であると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自分の希望や思いを、遠慮なく伝えられる関係作りに努めている。その中で、意に添えること、困難なことを見極め、対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人のこだわりや好みを重視した上で、さり気ないアドバイスやサポートを行うようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けは、可能な限り利用者の力をお借りしている食事は、ゆったり会話をもちながら、食卓を囲むようにしている。食材の買出しの機会が増えるといい。	
			(外部評価) 食事に関する一連の作業は、可能な限り利用者の力を借り、「役に立っている」と一人ひとりが思える支援に努めている。調査員の訪問時に利用者と一緒に栗拾いをしたが、その時の栗を処理して昼食の炊き込み御飯に入れたと利用者から報告してもらった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた対応を心掛けている。「おいしく食事を摂る」ことの大切さを重視し、バランスの中にも、食べたり飲んだりすることへの意欲が沸くよう配慮している。夏場は特に、水分や栄養不足にならないよう注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔保持を習慣化することで、感染予防に努めている。気持ちよく食事をするための食前のうがいや、服薬をきちんと行うための、服薬前の口腔ケアにも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 気兼ねなく安心して排泄できるよう気をつけている。さりげない誘導や、知らせていただくことの大切さを伝え、気持ちよい排泄に繋がるよう支援している。	
			(外部評価) 多くの利用者は排泄に関して何らかの援助が必要であるが、さりげない支援を第一に考えてケアにあたっている。特に夜間は、利用者一人ひとりの状況に合わせた様々な工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事量や運動量、また、精神面も大きく影響していることを踏まえ、自然に気持ちよく排泄ができるよう配慮している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 安心してゆったり入浴できるよう配慮している。入浴を通じて心を開いて、会話が弾むこともある。日曜日は、御家族の面会も多いため、入浴を休みとしている。	
			(外部評価) 日曜日以外は毎日入浴できるよう支援しており、日に4～5人が入浴している。入浴拒否のある男性への対応で「髭剃りのための入浴」という声かけでスムーズに入浴できた例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人で静かに休みたい、誰か傍にいて欲しい等、眠りや休息に対する思いを受け止め、安心して眠りにつけるように気配りしている。場合によっては、眠前薬の服用も、御家族や、協力医と相談しながら、行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の大切さを、皆が常に認識し合えるよう声を掛け合っている。薬の変更などの際は、申し送りを確実にし、変化等ないか注意している。協力医や、看護師、薬剤師からの指示を守り、安全に服薬できるよう気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割については、昔から慣れ親しんだ事を中心に、お願いしている。他者への配慮ある方への対応や、こだわりのある方など、その時々状況に合わせて、お膳立てしている。タバコを楽しみにされている方には、喫煙所を設け、気分転換に繋げている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人、御家族と相談しながら、本人の行きたい場所への外出支援を行っている。本人の思い、御家族の思いを汲みとり、生まれ故郷の墓参りに姉妹で行くことができた。本当に行きたいところや、帰りたい場所を、今後も、可能な限り支援していきたい。	
			(外部評価) ホームは平屋建てで、利用者は自由に戸外に出られ、近所の公園に毎日散歩に出かける利用者もいる。玄関前にはベンチが設置され、道行く近所の方とあいさつを交わしている。ホームの周りには広めの通路があり、周りの景色を楽しみながら歩くだけでも気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことにより安心される方については、持っておられるが、お金を使う機会が少ないため、やや不満をお持ちされる。トラブル防止に努めると共に、個々の力量に合わせて、買い物支援を増やしたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年末には、本人の希望や御家族の事情を汲みながら、年賀状を投函することができた。また、そのことで、お正月気分も味わうこともできた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 浴室、トイレなどは、見やすいよう大きな文字で目印をつけている。夜間は、安全で、なおかつ安心できる照明の明るさを保てるよう気をつけている。	
			(外部評価) ユニット毎に共用空間には特色があり、それぞれの個性を表した過ごしやすい雰囲気となっている。利用者は明るい表情で共用空間に集まり、歌を歌ったりおしゃべりを楽しんでいる。食堂に大きく掲示されている「感謝と助けあい」の言葉を利用者・職員共に大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになりたいとき、気の合う仲間と過ごしたいときの気持ちを尊重し、同じ空間を共にしながらも、心安らげる時間を大切にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) お位牌や、御家族の写真の持ち込みで、心穏やかに過ごされている。また、心身状況の変化により、やむを得ず、居室チェンジされた方については、混乱なく過ごせるよう家具の配置等が変らないよう気をつける。	
			(外部評価) ホームは平屋建てで、全居室から中央の広く明るいベランダに出ることができる。ベランダは普段は洗濯物を干しているが、時にイベントを開催することもある。それぞれの居室は開放的で、居心地良く過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の確認の困難な方へは、目印の工夫を行い、食堂の座席には、お膳の縁に目印をつけ、本人の不安解消と共に、他者とのトラブルのないよう、気をつけている。また、誰にだって間違いがあるということを、互いに認め合えるような関係作りに努めている。	